

## 平成24年第3回立科町定例議会会議録

1. 招集年月日 平成24年9月5日（水曜）

1. 招集の場所 立科町議会議場

1. 開会 午前10時 宣告

1. 応招議員

1番 榎本 真弓	2番 森本 信明	3番 小宮山 正儀
4番 土屋 春江	5番 西藤 努	6番 田中 三江
7番 山浦 妙子	8番 小池美佐江	9番 箕輪 修二
10番 宮下 典幸	11番 橋本 昭	12番 滝沢寿美雄

1. 不応招議員 なし

1. 出席議員 12名

1. 欠席議員 なし

1. 地方自治法第121条の規定により説明のため出席した者の職・氏名

町長 小宮山和幸 副町長 森澤光則 教育長 塩沢勝巳  
総務課長 笹井茂 町づくり推進課長 笹井恒翁  
町民課長 羽場幸春 農林課長 中澤文雄 建設課長 荻原邦久  
教育次長 笹井伸一郎 観光課長 岩下弘幸  
ハートフルケアたてしな所長 佐藤繁信 会計室長 真瀬垣妙子  
代表監査委員 市川 泉 庶務係長 長坂徳三

1. 本会議に職務のため出席した者の職・氏名

議会事務局長 今井民夫 書記 伊藤百合子

散会 午後12時12分

(午前10時00分 開議)

**議長（滝沢寿美雄君）** これから、本日の会議を開きます。

報告します。本日の会議において、『広報たてしな』の取材撮影を許可してあります。  
議事日程の説明を願います。今井事務局長。

**事務局長（今井民夫君）**           ――― 議事日程朗読 ―――

平成 24 年第 3 回立科町議会定例会議事日程第 1 号

平成 24 年 9 月 5 日 水曜 午前 10 時 00 分開議

- 第 1 認定第 7 号 平成 23 年度立科町住宅改修資金特別会計歳入歳出決算認定について
- 第 2 認定第 8 号 平成 23 年度立科町下水道事業特別会計歳入歳出決算認定について
- 第 3 認定第 9 号 平成 23 年度立科町白樺高原下水道事業特別会計歳入歳出決算認定について
- 第 4 認定第 10 号 平成 23 年度立科町水道事業会計決算認定について
- 第 5 認定第 11 号 平成 23 年度立科町索道事業特別会計決算認定について
- 第 6 報告第 4 号 健全化判断比率等の報告について
- 第 7 報告第 5 号 立科町教育委員会の事務の管理及び執行状況の点検及び評価報告書について
- 第 8 請願第 2 号 「義務教育費国庫負担制度」の堅持を求める請願書
- 第 9 請願第 3 号 新教職員定数改善計画の実施と、教育予算の増額を求める意見書提出に関する請願書

以上です。

◎日程第 1 認定第 7 号～日程第 3 認定第 9 号

**議長（滝沢寿美雄君）** 日程第 1 認定第 7 号 平成 23 年度立科町住宅改修資金特別会計歳入歳出決算認定についてから日程第 3 認定第 9 号 平成 23 年度立科町白樺高原下水道事業特別会計歳入歳出決算認定についてまでの 3 件を一括議題とします。

本案について、趣旨説明を求めます。真瀬垣会計管理者、登壇の上、願います。

**会計室長（真瀬垣妙子君）** 昨日の反省を生かしながら、3 会計につきまして、説明としてまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

最初に、認定第 7 号 平成 23 年度立科町住宅改修資金特別会計歳入歳出決算認定につきまして、提案理由のご説明を申し上げます。

この住宅改修資金特別会計は、貸付事業の適正化を図るために設けられた特別会計であります。現在、新たな貸付は実施しておりません。基金の活用を図りながら、過去の借受者からの

返済金を原資として、町が借り入れている公債費を償還することが主な会計内容であります。平成23年度の償還対象者は、現年度分7名、過年度分7名、実質10名であります。

それでは、3ページをお願いします。

歳入合計467万2,873円、歳出合計466万6,317円、歳入歳出差引残額6,556円でございます。

4ページをお願いいたします。歳入歳出決算事項別明細書でご説明を申し上げます。

歳入、2款県支出金、1目住宅費県補助金30万5,000円は、貸付事業の助成補助金であります。3款財産収入、1目利子及び配当でございますが2万3,199円、これは基金の積立利子でございます。4款繰入金、1目の基金繰入金は112万7,000円、5款繰越金、1目繰越金1万4,536円は前年度繰越金でございます。6款諸収入、1目住宅新築資金等貸付金収入、1節の現年度分227万8,138円、徴収率は70.9%でございます。収入未済額は2名で93万5,160円となっております。2節の過年度分92万5,000円、収入未済額は7名で2,611万1,698円ございました。

6ページをお願いいたします。

歳出、1款土木費、1目一般管理費では166万4,043円、これにつきましては、一般職員の人件費が主なものでございます。2款公債費、1目元金は243万6,424円、2目利子は56万5,850円で、最終償還年度につきましては平成33年度でございます。

8ページ、お願いいたします。

実質収支に係る調書でございますが、1、2、3につきましては3ページと同額であります。4、翌年度へ繰り越すべき財源はございません。5、実質収支額は歳入歳出差引額と同額であり6,556円、6、基金繰入額はございません。

基金につきましては、前年度末現在高852万2,964円、決算年度中、増減高110万3,801円減、決算年度末現在高は741万9,163円でございます。

以上でございますが、よろしくご審議の上、お認めをいただきますよう、お願いいたします。

続きまして、認定第8号 平成23年度立科町下水道事業特別会計歳入歳出認定につきまして、提案理由のご説明を申し上げます。

3ページをお願いいたします。

歳入合計3億8,736万1,349円、歳出合計3億8,048万5,685円、歳入歳出差引残高は687万5,664円あります。

それでは、4ページをお願いいたします。歳入歳出決算事項別明細書によりまして、主なものについてご説明を申し上げます。

1款分担金及び負担金、1項1目3節一般下水道事業分担金440万7,405円は、6件7口の新規加入及び1件の工事負担金で、滞納繰越分の収入未済額は3件で23万円でありました。2項負担金1,200万1,000円は、茂田井処理区の管理に関する負担金であります。2款使用料及び手数料、1項1目1節下水道使用料1億2,655万3,990円は、9処理地区の下水道使用料、徴収率

は98.7%、2節滞納繰越分収入済額135万6,090円で徴収率31.4%、収入未済額は、合わせて235件で462万4,750円であります。

6ページをお願いいたします。

5款繰入金2億3,463万5,000円は、一般会計繰入金で、一般下水道事業経費、コミプラ等管理経費、起債償還金等に要する繰り入れであります。6款繰越金570万9,664円は、前年度繰越で茂田井分の469万3,133円につきましては、川西保健衛生施設組合に繰り越すものであります。7款諸収入、1節雑入216万3,000円は、雷の被害による損害共済金であります。

8ページ、歳出、1款下水道費、1項1目下水道等管理費7,948万761円は、備考欄の二重丸のところなんです、特定管理経費の3,626万9,605円、農集管理経費3,285万2,296円、11ページに移りまして、一般職給与1,035万8,870円でございます。

2目コミプラ等管理経費1,087万9,608円は、コミプラ藤沢合併浄化槽、大城浄化槽、中尾・美上下地区に係る管理経費でございます。3目茂田井地区管理経費3,150万3,024円。

13ページをお願いします。15節工事請負費は、茂田井浄化センター監視操盤計装機器点検工事費でございます。17ページには、主要施策の成果で、地区ごとに詳細がありますので、ごらんいただければと思います。

2項下水道事業費、1目下水道等事業費239万900円、15節工事請負費の128万1,000円は、赤沢地区の公共マス設置工事費でございます。

14ページ、お願いします。

2款公債費2億5,623万1,392円は、1目元金1億7,151万7,495円、2目利子8,471万3,897円であります。

16ページ、実質収支に関する調書でございますが、1、2、3につきましては、3ページで申し上げましたとおりであります。4、翌年度への繰り越すべき財源はございません。5、実質収支額687万5,664円につきましては、歳入歳出差引額と同額であります。6、基金の繰入額はございません。

17ページにつきましては、主要施策の成果を載せてあります。

18ページは、財産に関する調書でございますが、移動がございませんでした。

19ページは、水洗化状況一覧表を載せてございます。

水洗化率につきましては、前年比0.7%増の85.9%になっております。

20ページは、補助金等の使徒一覧表でございます。

以上ですが、よろしくご審議の上、お認めをいただきますよう、よろしくをお願いいたします。

続きまして、認定第9号 平成23年度立科町白樺高原下水道事業特別会計歳入歳出決算認定につきまして、提案理由のご説明を申し上げます。

3ページをお願いいたします。

歳入合計4,451万1,797円、歳出合計4,234万7,338円、歳入歳出差引残額216万4,459円あります。

4ページをお願いいたします。歳入歳出決算事項別明細書により、主なものにつきましてご説明を申し上げます。

歳入の主なものといたしましては、2款使用料及び手数料4,154万5,052円は、1目下水道使用料、1節現年度分で4,040万4,450円、徴収率97.8%、2節滞納繰越分で113万9,702円、徴収率9.4%、収入未済額は合わせて124件で、1,188万6,836円であります。3款財産収入は、基金の積立利子74万9,360円であります。5款繰越金は、前年度繰越金219万8,385円でございます。6款諸収入は、預金利子でございます。

6ページをお願いいたします。

歳出につきましては、1款衛生費4,234万7,338円、1目下水道管理費、11節需用費では、光熱水費の747万7,562円が主で、13節委託料は、汚泥処分委託料46万1,643円、処理場管理委託料680万4,000円、15節工事請負費は、白樺高原下水処理場修繕工事費489万3,630円でございます。25節積立金は、新規に財政調整基金で943万6,000円、減価償却積立で578万5,000円、緊急修理積立で400万円、基金利子上乗せ74万9,360円の緊急積立が図れました。

8ページをお願いいたします。

実質収支に関する調書であります。1、2、3につきましては、3ページと同額であります。4、翌年度へ繰り越すべき財源はございません。5、実質収支額216万4,469円は、歳入歳出差引額と同額でございます。6、基金繰入額はございません。基金でございますが、先ほどご説明いたしました決算年度中の積立をしまして、決算年度末現在高は、財政調整基金1億3,169万43円、減価償却基金1億3,934万4,981円、緊急修理基金3,360万2,872円で、決算年度末現在高、3基金の合計額は3億463万7,896円でございます。

10ページは、主要施策の成果であります。ごらんいただければと思います。

以上でございます。よろしくご審議の上、お認めいただきますよう、お願い申し上げます。

これで、3会計の提案理由の説明を終了いたします。

#### ◎日程第4 認定第10号

**議長（滝沢寿美雄君）** 日程第4 認定第10号 平成23年度立科町水道事業会計決算認定についてを議題とします。

本案について、趣旨説明を求めます。荻原建設課長、登壇の上、願います。

**建設課長（荻原邦久君）** 認定第10号 平成23年度立科町水道事業会計決算認定について、提案理由のご説明をいたします。

まず、10ページをお開きください。

平成23年度立科町水道事業報告書による総括でございます。平成23年度の水道使用料につきましては、少子高齢化社会による世帯構成の変化や節水型製品の普及等により、有収水量が若干減少し、年間有収水量は114万1,907立方と、昨年より1.02%、1万1,785立方減少しました。営業収益全体では、受託工事は、給水収益の減少により、前年度より265万円減少の2億

6,302万6,000円でした。費用関係では、配水管の布設替えのほか、中央監視施設機器の更新が始まり、維持管理費も増加傾向であります。各種経費の削減に努め、2,719万1,000円の当年度純利益となりました。

建設工事の主な内容は、次のとおりでございます。まず、1番といたしまして、塩沢地区配水管布設替工事、ダクタイル鋳鉄管150mm、延長565.3mほか、2番としまして、町営住宅子育て支援住宅消火栓新設工事、ダクタイル管100mm、延長15.7mほか、3番としまして、中央監視システムの更新、南平配水池、南平井戸、白樺湖配水池、竜ヶ峰配水池の子局の更新でございます。4番としまして、泥ヶ沢北線給水管布設替工事、ポリパイプ50mmによる延長208.8mでございます。

それでは、2ページをごらんください。

収益的収入及び支出、第41款水道事業収益の決算額でございますが、2億7,535万3,280円です。内訳としまして、第1項営業収益が2億5,781万3,363円、第2項営業外収益が1,672万2,234円、第3項特別利益が81万7,683円でございます。

3ページをごらんください。

第51款水道事業費用の決算額ですが、2億4,509万1,669円です。内訳としまして、第1項営業費用が1億9,985万187円、第2項営業外費用4,510万4,702円、第3項特別損失13万6,780円、第4項予備費はゼロでございます。

4ページをごらんください。

資本的収入及び支出ですが、第61款資本的収入の決算額ですが、376万5,738円です。内容は、第1項工事負担金で376万5,738円です。

次に、5ページをごらんください。

第71款資本的支出の決算額ですが、1億2,949万4,605円です。内訳としまして、第1項建設改良費が6,322万7,020円、第2項企業債償還金6,626万7,585円です。資本的収入額が資本的支出額に対して不足する額、1億2,572万8,867円は、過年度分損益勘定留保資金で補てんしました。棚卸資産購入限度額は1,600万円で、決算額は1,510万1,488円となり、うち仮払消費税は71万9,118円です。次に、消費税納付額の計算ですが、仮受消費税1,232万7,618円マイナス仮払消費税397万3,737円、マイナス貯蔵品にかかわる仮払消費税71万9,118円で、消費税の納付額は763万4,763円となります。申告額が763万4,600円との差額163円は、雑入としました。

次に、6ページをごらんください。

損益計算書でございますが、営業収益は2億4,563万721円、営業費用は1億9,823万4,058円で、営業利益は4,739万6,663円となります。営業外収益は1,657万7,421円、営業外費用3,746万9,939円で、営業利益2,650万4,145円となります。特別利益、過年度損益修正益81万7,683円、過年度損益修正損13万272円で、当年度純利益2,719万1,556円、前年度繰越利益剰余金はありませんで、今年度、当年度未処理分利益剰余金は2,719万1,556円となります。

7 ページは、剰余金計算書でございます。

8 ページから 9 ページは、貸借対照表でございます。

11 ページをごらんください。水道事業関係議会議決事項と職員の状況でございます。

12 ページは、平成 23 年度に行った建設工事の概要でございます。

13 ページは、業務の事業量を表にしてございます。

給水人口は、前年より 44 名減の 8,115 人でございます。有収率は、前年より 4.84 ポイント減の 66.06%でございます。供給単価、昨年より 2 円 15 銭減の 209 円 66 銭でございます。給水原価は、昨年同様、199 円 50 円でありまして、利益部分は 1 m<sup>3</sup>当たり、おおむね 10 円で、昨年より 2 円減となりました。

14 ページは、事業収入と事業費用に関する事項でございます。

15 ページは、企業債及び一時借入金の概要でございます。企業債の本年度償還高は 6,626 万 7,585 円で、本年度末残高は 9 億 6,984 万 3,425 円でございます。一時借入金はございません。

16 ページから 19 ページは、事業収益費用の明細書でございます。

20 ページは、資本的支出の明細書でございます。

21 ページは、固定資産の明細書でございます。

22 ページから 23 ページは、企業債の明細書でございます。

参考資料としまして、平成 23 年度水道事業会計補てん財源出納簿を添付しましたので、ごらんいただきたいと思っております。

以上でございますが、よろしくご審議の上、お認めいただきますよう、お願い申し上げます。

#### ◎日程第 5 認定第 11 号

**議長（滝沢寿美雄君）** 日程第 5 認定第 11 号 平成 23 年度立科町索道事業特別会計決算認定についてを議題とします。

本案について、趣旨説明を求めます。岩下観光課長、登壇の上、願います。

**観光課長（岩下弘幸君）** それでは、認定第 11 号 平成 23 年度立科町索道事業特別会計決算報告について、提案理由のご説明を申し上げます。

最初に、8 ページをお開きをいただきたいと思っております。

総括事項でございます。平成 23 年度の夏山営業は、4 月 29 日から 10 月 30 日まで営業いたしました。原発事故の影響により、節電の必要に迫られたことにより、自然の涼を求める観光客が増え、前年よりも利用者数が増えました。台風の上陸などがほとんどなかったことは、高原の観光地に好影響だったと言えます。蓼科ふれあい牧場にはアルパカもやってきまして、親子連れなどに好評を博しました。

冬山営業は、スキー人口の減少に歯どめがかからず、加えて消費者の廉価、節約志向から、客単価は安価で固定しつつあり、多くのスキー場で厳しい営業を余儀なくされております。当町のスキー場も例外ではないため、経営改善に取り組み、コスト削減をしておりますが、老

朽化した設備、それから修繕や高騰する燃料費など、削減が厳しい面もあり、収支バランスの改善に至っていない状況でございます。

今シーズンは、ここ数年、オープン当初の雪不足などで営業に支障を来している経緯を踏まえまして、オープン日を、曜日にかかわらず、12月15日といたしました。これによりまして、宣伝効果も安定をいたしまして、12月の収益は前年度を上回りました。

しかし、その後、1月、2月になってからは、曜日の配列により連休が少なかったことや北信地方の豪雪や当地の降雨など、天候不順のイメージが広がってしまったためか、客足が伸びませんでした。3月になってからは、大地震のあった前年同月と比較して収益が上がったものの、シーズンを通しての増収とはなりません。この結果、収益は前年度比、約1.6%の減収となりました。

それでは、1ページの収益的収入及び支出について、概略説明をいたします。これにつきましては、税込みであります。それ以外の決算書につきましては、すべて税抜きとなっております。

索道事業収益予算額4億6,703万3,000円を見込んでおりましたが、1億2,695万666円の収入減となり、決算額3億4,008万2,334円であります。索道事業費用では、経費等の削減に努めてまいりましたが、決算額4億5,270万2,930円となりました。

2ページをごらんいただきたいと思っております。

資本的収入及び支出では、建設改良でリフトの整備、ゴンドラの救助用具、それから電気設備等で基盤と電気の予備品の費用として6,803万4,750円の決算額であります。この費用額については、過年度分損益勘定留保資金、当年度分の消費税及び地方消費税により補てんをいたしました。消費税については、下の欄をごらんいただきたいと思っております。

3ページをお開きをいただきたいと思っております。

平成23年度索道事業損益計算書でございます。

1、営業収益は、前年度比97.2%、910万2,735円の減となりましたが、3億1,891万8,300円の決算額であります。主な内訳といたしまして、リフト営業収益の2億9,475万3,776円、それからリフト外営業収益では、フォルダー自動販売機等の収益により、1,203万7,187円の決算額であります。自然園の営業収入では、自然園利用料の1,062万615円と土産類売上手数料150万6,772円で、1,212万7,337円の決算額でございます。2、営業費用は、前年比94.0%でございまして、2,781万8,283円の減でございます。トータルで、4億3,998万2,580円となりました。

リフトの営業費用は、1億9,961万4,990円で、前年比98.1%と、383万3,372円の減額でございます。主なものは、賃金で243万3,882円、それから消耗品で187万6,584円の経費削減でございます。スノーマシンの営業費用は8,598万719円で、前年比97.4%でございまして、225万4,238円の減額でございます。主なものは、賃金で200万7,419円の減額、それから燃料費で105万5,934円の経費の削減をいたしました。自然園営業費用では、決算額822万5,845円でございます。減価償却費でございますが、有形固定資産で1億4,612万526円、資産減耗費では4

万 500 円の決算額であります。

3、営業外収益は、受取利息の 100 万円、雑収入としまして 53 万 8,934 円、これは索道整備による工作等、金物を売却をいたしまして、その代金でございます。他会計負担金としまして、366 万 5,000 円は、観光課職員の案分により、観光センター経費を案分した額を一般会計から負担したものでございます。これによりまして、当年度純損失は 1 億 1,586 万 346 円となりました。

前年度繰越欠損金 1 億 1,208 万 7,607 円を加えまして、当年度未処理の欠損金は 2 億 2,794 万 7,953 円となりました。

4 ページをごらんをいただきたいと思います。

平成 23 年度索道事業損益計算書でございますが、平成 24 年 4 月 1 日施行の資本制度の見直しに係る改修によりまして、様式が変更になっております。資本金でございますが、30 億 3,571 万 1,805 円の年度末残高で、年度内の変動はございません。剰余金の中の利益剰余金につきましては、建設改良積立金の処分を未積立金の目的外使用として、議会の議決を経まして、繰越欠損金 2,627 万 1,520 円、処理しました。建設改良積立金の残額は、ゼロ円でございます。当年度純損失が 1 億 1,586 万 346 円となったため、前年度分を加えまして、2 億 2,794 万 7,953 円となり、資本合計の当年度末残高は 28 億 776 万 3,852 円でございます。

5 ページの欠損金処理計算書は、処分額はございません。

6 ページ、平成 23 年度索道事業貸借対照表でございますが、1、固定資産は、有形固定資産、無形固定資産を合わせまして、22 億 3,315 万 1,904 円でございます。2、流動資産は、現金預金が 5 億 7,672 万 2,776 円となり、前年と比べますと、3,534 万 6,022 円減額となりました。未収金は 2,908 万 2,017 円でございます。資産合計は 28 億 3,895 万 6,697 円でございます。

3 の流動負債は未払金で、3,119 万 2,845 円でございます。4、資本金は、自己資本金でございまして、30 億 3,571 万 1,805 円でございます。5、剰余金は、2 の当年度未処理欠損金 2 億 2,794 万 7,953 円でございます。負債資本合計は 28 億 3,895 万 6,697 円となりました。

10 ページから 13 ページは、収益費用明細書でございます。

14 ページには、資金的収入及び資金的支出内訳書でございまして、建設改良費の内容でございます。

15 ページは、固定資産明細書でございます。

16 ページには、補てん財源明細書でございます。

以上、ご説明申し上げましたが、ご審議の上、お認めいただきますよう、よろしく願いいたします。

#### ◎日程第 6 報告第 4 号

**議長（滝沢寿美雄君）** 日程第 6 報告第 4 号 健全化判断比率等の報告についてを議題とします。

本件について、報告を求めます。笹井総務課長、登壇の上、報告願います。

**総務課長（笹井 茂君）** 報告第 4 号 健全化判断比率等の報告について、申し上げます。

地方公共団体の財政の健全化に関する法律第3条第1項、及び第22条第1項の規定により、健全化判断比率及び資金不足比率を、下記のとおり、報告を申し上げます。

地方公共団体の財政の健全度を示す指標として、実質赤字比率、連結実質赤字比率、そして実質公債費比率、将来負担比率の4つの指標を、健全化判断比率として定めております。この4つの指標のうち、1つでも基準以上となれば、財政再生団体、または早期健全化団体となり、議会の議決により、財政再生計画または財政健全化計画を策定することとなります。さらに、これら計画の実施状況は、監査委員の審査に付するとともに、議会への報告、公表を行うこととされております。

平成23年度健全化判断比率の状況ですが、実質赤字比率、連結実質赤字比率につきましては、実質収支が黒字であるため、数字、数値が表示されません。実質公債費比率につきましては、少ないほど健全であるわけですが、昨年の報告数値は13.7%でしたが、起債償還額の減少に伴い、比率も下がっております。9.9%ということでございます。

将来負担比率につきましては、将来負担額に対し、充当可能財源等が上回っており、数値が表示されません。この比率が低いのは、基金が多く、繰上償還など行い、将来にわたる負担が少なくなったという理由が挙げられます。

次に、早期健全化基準については、国で示されております基準であります。これを超えますと、実質的な改善努力による財政の健全化を図る基準、財政健全化計画の策定、外部監査の要求の義務づけがされます。また、財政再生基準につきましては、これを超えますと、財政再生計画の策定、外部監査の要求の義務づけ、そして総務大臣が計画に同意した場合は起債が可能、財政運営が計画に適合しない場合は予算の変更等を勧告されることになっております。

2の公営企業会計に係る資金不足比率の状況であります。公営企業の資金不足を、公営企業の事業規模である料金収入の規模と比較して指標化したものでございます。対象となる水道事業、索道事業、そして下水道事業につきましては、資金の不足額はありませんので、数値は表示されません。

以上で財政の健全化判断比率等の報告とさせていただきます。

#### ◎日程第7 報告第5号

**議長（滝沢寿美雄君）** 日程第7 報告第5号 立科町教育委員会の事務の管理及び執行状況の点検評価報告書についてを議題とします。

本件について、報告を求めます。笹井教育次長、登壇の上、報告願います。

**教育次長（笹井伸一郎君）** 報告第5号 立科町教育委員会の事務の管理及び執行状況の点検及び評価報告書につきまして、ご説明をさせていただきます。

この件につきましては、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第27条におきまして、業界にご報告をさせていただくものでございます。

平成23年度につきましては、報告書に記載のとおり、12の主要な事業につきまして点検を行い、その結果に基づき、教育に関し、学識経験の有する者2名によりまして、改めて点検評価

をいただきました。

評価をしていただきましたのは、学校教育の経験者である宇山の遠山秀樹さんと、元公民館長で社会教育に精通しております町の佐藤修さんの2名でございます。その結果につきまして、報告書としてまとめましたので、ご報告させていただきます。

なお、それぞれの順位につきましては、AからDの4段階で評価をいたしました。個々の事業の評価の結果は、記載のとおりでございます。また、評価の具体的な内容につきましては、1ページから4ページまでの点検評価シートに記載のとおりですので、ごらんをいただきたいと思っております。

以上、ご報告に変えさせていただきます。

**議長（滝沢寿美雄君）** ここで暫時休憩とします。再開は11時5分からです。

（午前10時51分 休憩）

（午前11時05分 再開）

**議長（滝沢寿美雄君）** 休憩前に戻り、議事を再開します。

次に、平成23年度立科町各会計決算審査意見書の説明を求めます。市川代表監査委員、登壇の上、説明願います。

**代表監査委員（市川 泉君）** それでは、23年度決算審査報告をさせていただきます。お手元に配付してございます資料をごらんいただきたいと思っております。

まず、開いていただいて、1ページをごらんいただきたいと思っております。

平成23年度立科町一般会計・特別会計歳入歳出決算について、報告と意見を申し上げたいと思っております。

まず、第1、審査の概要でございますが、審査の対象は、立科町一般会計歳入歳出決算書ほか7特別会計でございます。審査の期間は、24年7月17日から7月31日まで行いました。審査の経緯につきましては、例年のとおり行わせていただきました。なお、決算の範囲が非常に広いということもございまして、全体像を把握し、その特徴を表示するように努めました。審査の結果でございますが、審査に付された各会計歳入歳出計算書、同事項別明細書、実質収支に関する調書及び財産に関する調書について、関係法令に準拠して作成されており、その係数は関係諸帳簿、その他証書類と照合した結果、誤りのないものと認められました。また、予算の執行及び関連する事務の処理は適正に行われていると認められましたので、ご報告をさせていただきます。

開いていただきたいと思っております。一般会計及び特別会計の決算の概要を申し上げますが、1,000円未満の数字、あるいはこれまで説明のあった内容等については省略をさせていただきます、要点のみを報告させていただきます。

まず、決算の総括、決算規模でございますが、一般会計及び特別会計の決算額は次のとおりでございます。

まず、歳入でございますが、一般会計決算額49億9,746万3,000円、重複控除675万円、純決算額が49億9,971万3,000円。歳出でございますが、決算額42億3,519万7,000円、重複控除4億3,168万5,000円、純決算額38億351万2,000円でございます。差引でございますが、決算額7億6,226万5,000円、純決算額11億8,720万1,000円でございます。

次に、特別会計でございますが、決算額26億6,325万7,000円、重複控除額、一般会計から繰り入れた分でございますが4億3,168万5,000円、純決算額22億3,157万1,000円。

歳出でございますが、決算額25億7,612万4,000円、重複控除、一般会計から繰り入れたものが675万だけでございます。純決算額25億6,937万4,000円でございます。差引決算額、8,713万2,000円でございます。純決算額が△3億3,780万2,000円という数字でございます。合計欄をごらんいただきたいと思います。

決算額、歳入の決算額でございますが、76億6,072万円でございます。重複控除額が4億3,843万5,000円、純決算額が72億2,228万5,000円でございます。歳出でございますが、決算額68億1,132万2,000円、重複控除額が4億3,843万5,000円でございます。純決算額63億7,228万7,000円という数字でございます。差し引きいたしますと、決算額8億4,939万8,000円、それぞれ相殺しますので、純決算額、純計決算額も8億4,939万8,000円ということでございます。

次の表は、今申し上げました一般会計・特別会計間の繰り入れ、繰り出しの数字でございます。この数字につきましては、昨年度の数字が4億2,480万4,000円ございましたので、ほぼ全額の繰り入れ、繰り出しということございました。

それから、次の表が、純計決算額を比較いたしましたものでございます。歳入額が、当年度72億2,228万5,000円、歳出額が63億7,288万7,000円ということで、差引残額が8億4,939万8,000円ということで、この数字が、両会計合わせて形式収支額ということでございます。比較増減は、2億754万3,000円の増となっております。増減率は32.3%ということでございます。

次に、決算収支でございますが、歳入歳出差引残額、形式収支でございますが、先ほど申し上げましたように、両会計合わせて9億4,949万8,000円という数字ございました。翌年度繰り越すべき財源、これが3億7,801万8,000円という数字がございます。

特別会計はございませんでした。繰越額、繰り越すべき財源の内容につきましては、保育所建設関係の経費でございますが、合わせてこの数字ということでございます。実質収支が3億8,424万7,000円、特別会計が8,713万2,000円ということで、合わせまして4億7,138万円が実質収支ということになっております。

単年度収支でございますが、一般会計が△1億684万5,000円、特別会計が961万3,000円、これもやはり△でございます。合わせまして、1億1,645万8,000円という数字でございます。これは前年度の実質収支から今年度の実質収支を差し引いたものでございます。単年度収支が赤字になるという、これは実質収支の差ということでございますので、予算執行上、特に問題があるという数字ではございません。

それから、予算の執行状況でございますが、これはちょっと表がございませんので、ちょっ

と読まさせていただきますが、歳入決算総額、先ほど申し上げました76億6,072万円は、総予算額77億8,616万8,000円に對しましては、1億2,544万7,000円の減収となっております、収入率は98.3%となっております。調定額に對しましては、国・県の未収入特定財源、これはこれから説明いたしますけれども、控除して比較いたしますと、79億9,053万5,000円に對する収入率、これが95.9%と、昨年と同水準となっております。収入未済額3億2,845万8,000円でございますが、前年度に比しまして、この数字はちょっと修正をさせていただきたいと思いますが、1,053万725円、これが913万7,112円の増ということに訂正をしていただければと思います。なお、不納欠損額は135万5,000円でございます。

次に、歳出決算額でございますが、68億1,132万2,000円、総予算額に對しまして87.5%、これは前年度91.0%でございます。この執行率で、5億5,676万8,000円を翌年度に繰り越しております。不用額は、4億1,807万7,000円となっております、前年度に比較しますと、1億5,809万9,000円の減ということになっております。

次に、4、財政構造でございますけれども、普通会計ベースによって分析したものでございます。

次のページをごらんいただきたいと思います。

まず、自主財源、これは当年度決算額が22億8,633万4,000円、対前年構成比で44.3は7.8%のプラスでございます。依存財源28億7,137万9,000円、これも前年度構成比の比較では、7.8%の減ということになっておりますが、内容的に申し上げますと、自主財源のほうが前年度繰入金、前のページに書いてございますが、1億9,211万2,000円、それから基金繰入金が1億6,272万5,000円、これが増となっております、自主財源の構成比を上げているということでございます。依存財源につきましても、地域情報化基盤整備事業補助金がゼロになったというようなことで、4億1,416万3,000円がなくなったということで、依存財源率が低くなっているということでございます。

23年度の特異な事情による状況でございます、自主財源が増になると、なっているというような状況ではございません。

それから、歳出の構成でございますが、歳出決算額を性質別に分類した表でございますが、表をごらんいただきますと、投資的経費、これが23億9,591万5,000円ということでございます、人件費等記載されておりますけれども、その中の扶助費でございますが、扶助費が3億187万9,000円ということで、前年に対しまして3,014万4,000円の増ということになっております、これが前年度に比較して0.9ポイント増になっているというような状況でございます。それから、投資的経費が、構成比で言いますと、12.9ポイント、前年度が16.1ということでございまして、ここでマイナス、△の3.2%という数字になっております。金額にしますと、1億6,828万の減ということでございます。これも、先ほど申し上げました地域情報中心基盤整備事業費の4億1,442万6,000円の減が影響しているということでございますが、子育て支援住宅2億1,190万円の経費がございますので、これと相殺して、1億6,828万という少ない△で済んだという状況でございます。その他、公債費につきましても、例年とほぼ同水準の数字とい

うことでございます。

ウの財政分析でございますが、財政力指数、今年度 0.33、経常収支比率 78.9、実質公債比率 9.9 という数字でございます。次のページに説明してございますけれども、ご案内のとおり、財政力指数については基準財政収入額を基準財政需要額で除して得た数字の3カ年の平均ということで、当年度 0.33 という数字で、これは税收減により財政力がわずか落ちたという状況でございます。この税收の減でございますけれども、後で説明しますけれども、地方税自体は増額になっておりますが、この時点の地方交付税現年度算定時におきまして、基準財政収入額の減というような計算がなされまして、数字が落ちているという内容でございます。それから、経常収支比率、これにつきましては、財政構造の弾力性の指標として用いられておりますけれども、いわば自由に使えるお金がどれくらいあるのかという指標でございますけれども、78.9 ポイントということで、昨年が続いて減少しているということでございます。それから、実質公債費比率につきましては、さらに説明がございましたように、9.9%ということで、これらの数値を見ますと、一段と財政構造の健全化が進んでいるという状況でございます。

それから、5の町債の状況でございますが、本年度発行した金額が、合計で3億 5,590 万ということで、償還した額が5億 3,167 万 2,000 円ということで、1億 7,577 万 2,000 円減になったということで、年度末残高が合計で59億 4,253 万 3,000 円ということで、これに起債残という意味では、水道会計の9億 6,984 万 3,000 円がプラスされるということで、合わせて69億 1,237 万 6,000 円の負債残があるということでございます。

2は一般会計でございますが、一般会計につきましては、前項、決算の総括でお示した表のとおりでございます。

ページをめくっていただきたいと思いますが、(1)歳入でございますが、町税以下町債まで、歳入合計、収入済額の欄をごらんいただきたいと思いますが、49億 9,746 万 3,000 円ということでございます。予算額51億 5,052 万円に対しまして、1億 5,305 万 6,000 円の減ということで、収入率は97%でございました。調定額54億 3,349 万 2,000 円に対する収入率は、92%となっております。不納欠損額114万 5,000 円、対調定比0.2%、収入未済額が4億 3,488 万 3,000 円、対調定比8.0%となっております。この収入未済額の欄をごらんいただきたいと思いますが、国庫支出金、これが1億 2,375 万円の収入未済、それから町債5,500 万の収入未済ということになっておりますが、合わせまして2億 5,613 万 3,000 円、これは保育所の建設費で、未収入特定財源ということで歳入されるものでございます。

次に、町税でございますけれども、収入済額8億 9,015 万 7,000 円、予算現額8億 7,491 万 1,000 円に対しまして、1,524 万 6,000 円増ということでございます。予算現額に対する収入率は101.7%、調定額10億 8,093 万 1,000 円に対しましては1億 9,077 万 4,000 円の減ということで、収入率は82.4%となっております。固定資産税の対調定収入率が74.7ということで、収入未済額が1億 6,157 万 8,000 円という大きな数字になっているということでございます。収入未済額は1億 8,962 万 8,000 円ということで、調定比17.5%ということになってございます。町税の収入率につきましては、全体では0.2ポイント上昇しております。その内訳でございま

すが、前年度分 97.0%、滞納繰越分 10.1%ということでございます。滞納繰越分につきましては、前年度 6.2%ですから、3.9%ほど改善されているということでございます。これは、長野県地方税滞納整理機構移管、あるいは差押え等による徴収努力があったということでございます。引き続き、早急な処理と効率的で有効な徴収を行うことを望んでおります。

それから、款 10 の地方交付税でございますが、これは収入済額が 3,505 万 1,000 円増となっております。

それから、次のページでございます。8 ページですね。款の 12 分担金及び負担金、これにつきましては、収入済額が△で 61 万 8,000 円ほどでございます。ただ、保育料の徴収につきましては、当年度分ゼロというようなことで大変努力されている、改善されているという状況でございました。

それから、使用料及び手数料でございますが、収入済額 93 万 8,000 円ほど増えております。収入未済額が 154 万 9,000 円ほど、これも増えております。これは、町営住宅使用料の収入未済額、当年度徴収率も 90.9%と低く、過年度分を含め、毅然とした徴収をしていただければというふうに思います。

それから、款 14 の国庫支出金でございますが、収入済額、増減額の欄をごらんいただきたいと思いますが、△の 4 億 4,508 万円でございます。これは、先ほど来申し上げております地域情報通信基盤整備推進事業補助金、これが皆減になったものでございます。

款の 15 の県支出金でございますが、これは選挙費委託金の減によるものでございます。

款 16 財産収入でございますが、収入済額が 160 万 7,000 円ほど△になっております。収入未済額、これが 237 万 9,000 円ほど増となって、5,906 万 7,000 円でございます。これにつきましては、経営破綻した会社がございますので、その経営破綻した会社の債権保有、これについて早期に検討していただいて、圧縮に努めていただければというふうに思います。

寄附金でございますけれども、これにつきましては 490 万 2,000 円の増ということでございますが、大口のふるさと寄附金 500 万円があったということでございます。

繰入金につきましては、款 18 繰入金でございますが、1 億 6,235 万 6,000 円の増ということでございます。これは次のページごらんいただきたいと思いますが、保育所整備基金の全額繰入というものでございます。

款 19 繰越金でございますが、当年度 5 億 4,510 万 9,000 円ということで、1 億 9,305 万 7,000 円の増ということになっております。

諸収入でございますが、増減額で見ますと、3,000 万 6,000 円ということでございますが、有害鳥獣駆除対策協議会貸付金 2,487 万 7,000 円、また地域公共交通活性化協議会貸付金 450 万 2,000 円の増ということでございます。

町債につきましては、当年度 3 億 5,590 万、前年度 2 億 8,690 万円ということで、増減額が 6,900 万円ということになっております。これにつきましては、交付税振替分の臨時財政対策債、これが 7,110 万円減少いたしましたけれども、地域活性化事業債が 1 億 5,600 万円増加したということによる増加でございます。収入未済は、先ほどお話しした未収入特定財源というこ

とでございます。

次に歳出でございますけれども、議会費以下予備費まで、支出済額が42億3,519万7,000円でございます。予算現額51億5,052万円に対しまして、82.2%の執行率で、翌年度繰越額5億5,676万8,000円、不用額3億5,855万4,000円、予算現額に対して7.0%となっております。これを前年度と比べますと、支出済額は1億5,881万円と、3.6%減少しているということでございます。不用額につきましては、先ほど申し上げたとおりでございます。

款1議会費でございますが、支出済額、これが1,989万4,000円の増ということになっておりますけれども、これはそこに説明してございますとおり、地方議会議員年金制度が平成23年度6月1日廃止され、廃止前の受給者にかかわる退職年金財源を公費負担したためであるということでございます。

次のページをお願いしたいと思います。

総務費でございますが、支出済額、これが今年度5億1,791万9,000円減となっております。これは、先ほど来申し上げております補助金の減ということでございます。最近の電力の供給能力の危惧されている中で、町としてLED化や省エネに取り組み、一定の成果を挙げておりますけれども、将来的に自然エネルギーの活用、これもまた前向きに検討していただければと思います。また、立科町ブランド力向上事業で製作いたしましたイメージキャラクター、しいなちゃん、ほうぼうで活躍されておられますけれども、これらを使ったPRにさらに努めていただければというふうに思います。

款3の民生費でございますが、これは先ほど来申し上げております繰越額でございます。支出済額が9億657万1,000円、昨年度比較はして、1億265万8,000円の増ということでございます。この保育所建設費の繰越があったわけでございますけれども、保育所建設事業の中で、木造公共施設整備事業といたしまして県の補助金1億2,375万円、これは非常に厳しい財政状況の中で獲得されたということは大変な努力をされたのだという思いがいたします。

それから、衛生費でございますが、これにつきましては1,091万9,000円の減ということで、ほぼ昨年と同水準の支出ということになってございます。

それから、款5の農林水産業費でございますけれども、これが支出済額が増減額で4,264万5,000円の増ということでなっておりますが、これにつきましては、立科町有害鳥獣駆除対策協議会への貸付金2億4,087万7,000円増加してございます。また、土地改良費で、新規事業経営、ため池等の整備事業、これは1,162万5,000円皆増になっているということが原因でございます。遊休荒廃農地対策につきましては、前年度より8.9haの減少成果が報告をいただいておりますが、引き続き事業の推進を図っていただければというふうに思います。

それから、商工費でございますが、増減で申しますと、6,128万1,000円の増ということでございます。これは、商工費の会計処理変更に伴う中小企業振興資金貸付預託金8,000円が増加しまして、観光施設整備事業、これが1,925万,000円減少したと、その関係でございます。

款7土木費でございますが、支出済額、増減額で1億5,624万8,000円ということで増となっておりますが、これは町営住宅の建設事業費の増ということでございます。

次のページ、ごらんいただきたいと思います。教育費でございますが、支出済額が2億9,568万5,000円と、ほぼ昨年度と同水準ということでございます。特に、特に特別支援教室につきましては、必要とする児童が立科町は23名いるということで、約6%、高い割合となっておりますけれども、町費で特別な支援の配置、財政支援の配置をしておりました。

それから、特別会計、3の特別会計でございますが、国民健康保険事業、以下白樺高原下水道事業まで、予算現額が26億6,325万7,000円、歳出につきましては25億7,612万4,000円でございます。差し引き8,713万2,000円の黒字、翌年度へ繰り越すべき財源がございませんので、形式収支、実質支出ともに黒字でございます。前年度の実質収支は9,674万5,000円で、黒字でございます。当年度の単年度収支は、961万3,000円の赤字でございます。

次に、国民健康保険事業特別会計でございますが、予算現額が8億230万円でございます。歳入が8億844万5,000円、歳出7億9,776万3,000円で、形式収支、実質収支ともに1,068万2,000円の黒字で、単年度収支は111万3,000円の赤字ということでございます。

歳入の欄をごらんいただきたいと思います。収入済額8億844万5,000円、増減額が6,533万8,000円という数字でございました。この内容につきましては、前期高齢者交付金が過年度精算もございまして、1億181万4,000円と大きく増加したことによるものでございます。国民健康保険税の収納率は86.7%でございまして、前年度よりは1.1%向上しているということでございました。現年度分で95.5%、前年度94.0%ですから、改善はされておると。滞納繰越分につきましては、32.1%で、99.1%、前年度の数値より改善されているということでございまして、引き続き改善の努力をされたいということでございます。歳出でございますが、支出済額7億9,776万3,000円ということで、増減額で6,645万1,000円という数字でございます。国保会計につきましては、先ほど申し上げましたように、過年度の精算交付金が大きく、基金からの繰り入れが生じなかったということでございますけれども、実質的には当年度分を現税率でカバーできない状況にあるというふうに思いますので、医療費の抑制に努めながら、国保税の適正化を図る必要があるというふうに思います。

後期高齢者医療特別会計につきましては、特に大きな課題はないというふうに思います。広域連合への保険料納付、これが対象でございまして、納付金が6,003万1,000円と、支出済額のほとんどでございます。

それから、介護保険特別会計でございますけれども、当年度の収入済額7億4,213万6,000円、これにつきましては予算現額に比べまして87万3,000円下回っております。前年度と比較いたしますと、5,836万5,000円の増加ということでございます。歳出をごらんいただきたいと思います。増減で申し上げますと、5,375万7,000円の増ということでございます。保険給付費の増という内容でございます。介護保険につきましては、居宅介護サービス、この給付費が前年度と比較いたしますと、4,922万の増と、19.3%と急速に増加しております。この制度の熟知により、このサービスを利用する傾向が顕著とはなっておりますので、さらに給付費の上昇が予想されます。保険給付費抑制のため、地域支援事業等、介護予防事業の充実を望んでおります。

4のハートフルケアたてしな事業会計でございますが、増減で2,945万、収入済額が増えております。これにつきましては、サービス費収入が1,395万4,000円、それから共同住宅のスプリンクラー設置に係る一般会計からの繰入金735万7,000円、これの増加ということでございます。収入率に関しましては、入所者の決定につきまして、事前に情報を収集しておいて、そういう事態になったときにはすぐに入所できるような体制をとったというようなことで、効率的な改善が図られておりました。歳出でございますけれども、支出済額が増減で申し上げますと、3,667万2,000円の増ということになっております。これは基金の追加積立金2,000円の減少、それからスプリンクラー設置事業費、これが5,266万8,000円増加した、これの相殺ということでございます。ハートフルケアたてしなにおきましては、社会福祉法人化に向けまして、介護職員の施設実習や外部講師を招いての研修等、人材の育成を図る職場づくりに取り組んできておりますが、移転増床計画に伴う人材確保は急務でございますので、人材の集まる職場を目指して、早急に体制整備を進めていただければというふうに思います。

住宅改修資金特別会計については、引き続き協議会と連携により、具体的な早期収納方法の検討をお願いしたいというふうに思います。

それから、6の下水道事業特別会計でございますけれども、これにつきましては、まず歳入でございますが、収入済額が1,098万4,000円の△ということでございますが、収入未済額、これが22万9,000円の増ということでございます。増加傾向にございますので、徴収体制の見直しをしていただければというふうに思います。それから、歳出でございますが、1,215万円の減でございますけれども、水道事業につきましては、23年度末で29億円を超える起債残がまだあるというようなことで、効率的な事業運営のために、それぞれの今後に向けた、現在は準備を進めておられますけれども、制度的な制約がある中で、なお一層効率的な執行に努めていただければというふうに思います。

7の白樺高原下水道事業特別会計でございますが、これにつきましては、特に大きな課題はないと思います。引き続き、早期徴収に努めていただければというふうに思います。

それから、4の財産に関する調書、22ページでございます。これにつきましては、詳細な報告がございましたので、省略をさせていただきたいというふうに思います。

次に、大きな2の平成23年度立科町企業会計決算に関してでございますけれども、まず水道会計でございますけれども、担当課長のほうから大変詳しい説明がされておりますので、27ページの3の経営成績をごらんいただきたいというふうに思います。当年度の未処分利益剰余金、これが2,719万1,000円発生しております。これが、今後処分決定されるということでございますけれども、その下の欄の総収益、これを総費用で除した数字が111.5ということでございます。それから、営業収益を営業費用で割った費用比率が123.9%ということでございまして、これが前年度に比較しまして減少しているということで、7.2%減少しているということで、流動資産そのものは増加しているわけですが、そんなわけで健全状況を保ってはいるわけですが、年々その率も低下してきております。これから配水管の布設替えや中央監視システム、それから配水池の修繕等の大規模な建設改良工事も予想される中でございますので、長期的視

野に立った経営をしていただければということでございます。

それから、28 ページをごらんいただきたいと思います。

索道事業特別会計でございますが、この会計につきましても、担当課長から詳細な報告がございましたので、一番最後の経営成績、この表をごらんいただきたいというふうに思います。これは総収益が3億2,412万2,000円、総費用が4億3,998万2,000円ということで、当年度純損失、これが1億1,586万円ということで、前年度の繰越欠損金1億1,208万7,000円、これを加えますと、当年度末の未処理欠損金、これが2億2,794万7,000円ということでございます。こういった状況の中で、総費用で総収益を割った数字が73.7%、それから営業収益を営業費用比率で除した数字が72.5と、100を相当切っているという状況でございます。赤字体質の改善が見えてないというようなことでございます。震災等の影響もございまして、70.4%と、昨年は大きく落ち込んだわけでございますけれども、今年度はさらにそれを超えて厳しい状況ということになっております。先ほど申し上げましたように、今年度未処理欠損金は、昨年度を合わせまして、2億2,794万7,000円と膨らんでございまして、極めて厳しい経営状況が続いております。引き続き思い切った収支バランスの改善策を講じていただければというふうに思います。

大きな3のむすびでございますけれども、読まさせていただきますと思います。

決算全体を見ますと、一般会計・特別会計の重複額を相殺した決算規模から実質収支は4億7,138万円の赤字、単年度収支は1億1,645万8,000円の赤字となっております。また、各種財政指標を見ますと、財政力指数は0.33で、前年度より0.2ポイント減少し、依然として依存体制の中にございます。経常収支比率は78.9%、実質公債費比率9.9%と、おのおの改善をしております。今後ともに財政再建の強化に努め、財政の健全化を維持していただければというふうに思います。

歳入につきましては、町税全体では3,871万9,000円の増収でございました。入湯税の浸透など、引き続き自主財源の確保に努力していただきたいと思います。町税を初め、使用料及び手数料、財産収入などの収入未済額が一部改善されたとはいえ、増加しております町営住宅使用料につきましては、長期にわたる滞納者や1割近い現年度分の収入未済が発生しており、その解消のため、条例に従い、退去を含め、実効性のある収納に取り組んでいただきたいと思ます。

歳出につきましては、子育て支援、住みよい町づくり、立科教育、立科ブランド、産業振興を掲げ、人口増や地域活性化を推進する中で、子育て支援住宅や統合保育所整備などの主要施策は既に完成あるいは着手し、目標に向かった成果があらわれております。これらの施策を推進するために、今後新たな用地取得、跡地の有効利用等を念頭に財産価格審議会設置を検討していただければというふうに思います。これにつきましては、現在適正な対応がされておらないという意味ではなくて、システムとして将来に向かって設置しておくことが肝要かなというふうに思っております。

それから、23年度に設立しました立科町農業振興公社につきましては、軌道に乗せるべく努

力されておりますが、個別事業の単年度計画ではなく、目標とする事業規模を内容とする中長期的なプランを策定させ、町としても早期に自立に向けた事業展開を図っていただければというふうに思います。

公営企業でございますが、水道事業につきましては、健全経営の中ではございますが、今後の給水人口減、建設改良の必要性に注視しながら、経営に臨んでいただければというふうに思います。索道事業につきましては、スキー場の人口減に歯どめがかからず、極めて厳しい営業を余儀なくされる現況の中で、そのあり方の議論が随所でなされておりますが、観光事業全体の振興を考慮しながら、事業検証をさらに進め、関係者の連携を図りつつ、誤りのないといえますか、時宜を得た方向性を示していただければと思います。

昨今の経済情勢の下降や人口減により町税収入の減少が予想され、財政状況はより依存体質化が予想されます。そのため、各般の施策の推進に当たっては、効率的・効果的な行財政運営のため、事業の効果検証を踏まえ、施策の優先順位の一層の明確化に努められたい。なお、23年度発生いたしました固定資産税の評価漏れや不適切な会計処理につきましては、その後の検証や再発防止に向けた方策が講じられていましたので、申し添えたいと思います。

以上で、23年度決算審査の報告を終了させていただきます。

次に、23年度の財政健全化審査に関する意見でございますけれども、先ほど来説明がございましたように、実質公債比率が9.9%ということで改善をされているという状況でございます。その他の実質赤字比率等については数字はないという状況でございます。財政健全化法からは、特に指摘すべき事項はございませんでした。

以上をもちまして、決算審査に関する意見の報告にさせていただきます。

#### ◎日程第8 請願第2号

**議長（滝沢寿美雄君）** 日程第8 請願第2号 「義務教育費国庫負担制度」の堅持を求める請願書を議題とします。

本請願の趣旨説明を願います。紹介議員、10番、宮下典幸君。

**10番（宮下典幸君）** 提案理由につきましては、お手元に添付されております資料のとおりでございますので、ご審議の上、お認めいただきますよう、お願い申し上げます。

#### ◎日程第9 請願第3号

**議長（滝沢寿美雄君）** 日程第9 請願第3号 新教職員定数改善計画の実施と教育予算の増額を求める意見書提出に関する請願書を議題とします。

本請願の趣旨説明を願います。紹介議員、10番、宮下典幸君。

**10番（宮下典幸君）** 提案理由につきましては、それぞれお手元に添付されております資料のとおりでありますので、ご審議の上、お認めいただきますよう、お願い申し上げます。

以上です。

**議長（滝沢寿美雄君）** 請願について上程をいたしますが、ご意見をお持ちの方は、質疑の際にお願いを

いたします。

また、審査については、質疑終了後、所管委員会に付託する予定です。

以上で、本日の日程は全部終了しました。本日は、これで散会とします。ご苦労さまです。

(午後0時12分 散会)